

## ◆ 平成 29 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 エンハンスネイチャー荒川・江川

20A-51

代表者：理事長 小川早枝子

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

サクラソウトラスト地はもともと絶滅危惧種が僅かに残されていた場所でそれらを群落へと自然再生を図った活動である。しかし、生物多様性が少しずつ失われていくことに気づいた。こうした中で特に夏の強い陽ざしに強い植物、ホソバオグルマやミソハギ等の導入を計ることとした。特に留意したのは絶滅危惧種にこだわらないことと荒川流域の種の導入に腐心した。



オグルマ近くにミソハギ移植

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2016年にホソバオグルマをトラスト地内の一部を造成して移植をはじめた。ミソハギは苗をつくる作業に取り組んだ。2017年8月20日にその苗をホソバオグルマ近くの北側に50株ほど移植した。ヨシを刈り取る作業をこまめに行う。この辺りにはミソハギが自生したという情報が地権者からあり大変生育がよくてホッとした。11月1日に草刈り、11月26日に野焼き、12月16日に草運び大会を開催した。ホソバオグルマはもとよりミソハギが野焼きに適しているかどうかわからないので野焼きの範囲に入れなかった。この場所が両種の栽培適地であると判断して12月24日に試験地に畦をつくり、ホソバオグルマとミソハギの自生地として水位コントロールができるように工夫した。



早春開花植物に必須の草刈り開始

維持管理は週2日集まれる人で維持管理作業を行うので毎月トータルで30名以上の参加者がある。



ミソハギ等の自生地拡大作業

### 3. 活動の成果

2016年に移植を始めたホソバオグルマは生育がよくて驚くほどであった。ミソハギについては8月にはじめて移植したので成果のほどはまだ不明ではあるが、これまでのミソハギの生育から推察して群落形成を確信している。

12月24日に造成した畦道には2016年に増殖したノハナショウブを植栽する予定であり、湿地植物群落が今夏には見られるとこれまでの経験を通して確信している。

### 4. 今後に残された課題

もともと生物多様維持試験のために新たな湿性植物群落をつくろうという計画なので、取りあえずはホソバオグルマとミソハギをテーマとして行うが、ほかにどのような植物を導入するかは種の減少の中で相当の試行錯誤で行うことが予測される。